こんな先生いるよ！



一人ひとりに適した「学び方」をデザインする

理学部第一部 科学コミュニケーション学科 教授
渡辺 雄貴（わたなべ ゆうき） 先生

「教えること」を科学する

どのような研究をされていますか。

専門は教育工学で、中でもインストラクショナルデザイン（授業設計）が研究の中心です。従来の教育を単にデジタルに置き換えるのではなく、統計的な検証を通して、学習者一人ひとりに適した「効果的・効率的・魅力的な学び」の実現を科学的に探究しています。

特に、「教え方」「学び方」に着目し、生徒の学習を支援する教育システムの開発研究に取り組んでいます。その一例が、NOTAS（Nudge for Note-Taking Assist System）です。これはタブレット端末を活用し、例えばクラス全体の「線を引く」行動をリアルタイムに分析し、線を引いていない生徒には、その箇所が重要であることを視認できるようにします。また、クラス全体で理解不十分な箇所を教師に対してリアルタイムに伝えることで、教師が授業中に補足説明を行うなど、その場に応じた柔軟な授業改善を可能にします。こうした仕組みにより、学習者に合わせた学習支援と、教師による授業改善の両立を目指しています。

人に何かを伝えることが好きで、小学生の頃から教師という仕事に興味を持っていました。高校時代、数学だけ成績が振るわず、「将来は英語か社会の教師」という選択肢を示された際に、「教え方を変えれば、もっと理解できるようになるのでは」と考え、文系から理系へ進路を変更し、あえて数学の教師を目指しました。

この経験により、授業方法や学習方法には合う・合わないがあり、自分に合った方法を見つけることが大切だと実感したことが、現在の研究にもつながっています。

本学科は、科学コミュニケーションを理論と実践の両面から学べる、日本で唯一の学科です。数学や物理、化学など、分野はそれぞれ独立しているように見えて、実は全てつながっています。幅広く学ぶ中で、知識だけでなく、新しい分野の「学び方」も身につけられます。

社会に出た後も新たなことを学び続ける必要がある今の時代だからこそ、専門分野を越えて学ぶ経験を積めることがこの学科の魅力だと思います。

日課はジムでのランニング

趣味はありますか。

体型維持のため、毎日ジムに通って走っています。太りやすい体質なので日々の運動を習慣にしていて、今朝も1時間半走ってから来ました。海外出張中も欠かさず走ります。

また、最先端のテクノロジーが凝縮された車や飛行機が好きで、乗るのも見るのも楽しみます。飛行ルートや機材の特徴を調べたり、機体やエンジンの構造で気になることがあれば、学内の機械工学科の先生に質問しに行ったりもします。身の回りの「なぜ？」を探究する私の姿勢は、日常のさまざまな場面に表れるようで、出張に同行した学生は疲れて帰って来ます（笑）。

藤沢享乃（ジェイクリエイト）





日課のランニング中に海外ドラマを見ることも多い。ワーナー・ブラザース・スタジオツアー・ハリウッドに行った際は『フレンズ』のセットのソファに座り記念撮影をした



2025 年度の学位記授与式を終えたゼミ生たちと